



写真で見る京都自然紀行

ナカニシヤ出版

ISBN978-4-7795-0481-5

C0040

定価1,900円+税

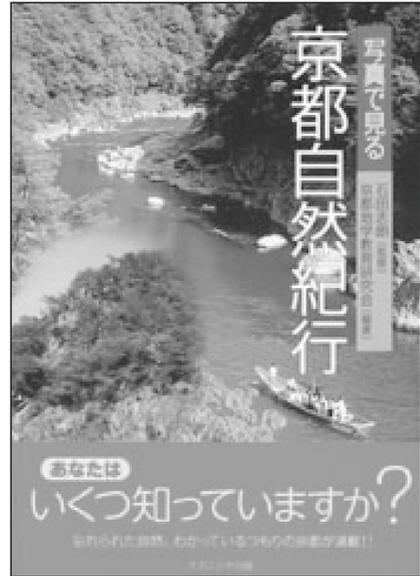
A5判 224頁

石田志朗 監修／京都地学教育研究会 編著

京都の自然や歴史、暮らしを地球科学の視点から写真を使って解説するガイドブック「写真で見る京都自然紀行」が2010年7月に出版された。著者は京都地学教育研究会のメンバーであり、この中には私の大学院時代の研究アドバイザーであった立命館高校の紺谷吉弘先生や恩師である東山高校の安松貞夫先生の名もあった。本書の監修は山口大学名誉教授の石田志朗先生が担当され、写真を厳選し、しかも個々の写真について短い説明文で的確にメッセージを伝えるために、たいへん腐心されたことであろう。

ちなみに京都地学教育研究会は1949年に発足した京都府内の高等学校の地学科教員でつくる教科教育研究組織であり、長年にわたり地元に根ざした地学普及活動や地学教育に関する提言を積極的に実施してきている。彼らは既に1988年に「京都自然紀行」、1999年に「新・京都自然紀行」を出版しており、これらは文章記述が主体のガイドブックではあったが、全般にわたって解りやすい平易な文章で書かれていたと記憶している。

さて、11年ぶりに出されたシリーズの新刊は鮮明なカラー写真をメインに据え、「環境」、「地形・地質」、「防災」および「京のくらし」の4つの章ごとに京都の自然を読み解く構成となっている。「環境」には、金閣の雪、大江山の雲海、池一面に咲く花：深泥池、宇治川のうつりかわり、鳴き砂の浜：琴引浜など、21項目、「地形・地質」には、京都市の展望台：大文字山、鴨川は付け替えられたか？、牛若丸の歩いた岩：鞍馬山の石灰岩、「地学」遺産：二条城、80万年前、深草は干潟だった、石の博物館・京都駅ビル、笠置山の磨崖仏など、39項目、「防災」には、地震で出来た京都盆地、鯖街道と花折断層、秀吉が驚いた伏見の大地震、2004年23号台風被災の記録、三川合流と背割堤など、13項目、「京のくらし」には、琵琶湖の水に



注目した明治の人たち：琵琶湖疎水、京の車石、和東の里山、宇治茶、哲学の道を照らすホテル、伏水：伏見の地下水、原爆の目標だった京都：梅小路など、21項目、が記載されている。特に、「防災」の章で記述されている“京都の成り立ちと歴史的な地震や洪水災害との絡み”については何れの項目も興味深く、読者にもご一読をお勧めしたい。また、個人的には「環境」の末尾のコラムにある私の後輩の東山高校地学部の生徒による琴引浜の漂流物に着目した研究活動に関心を持った。

巻末には4億6千万年の京都の地史も最新の情報でまとめられており、参考文献としても貴重である。各項目には交通機関も記された地図が示されているが、ページ下に印刷されているQRコードを携帯電話で読み込めば、Google mapが表示される仕組みとなっており、本書を携帯しての現地自然観察の際にはたいへん重宝であろう。

最後に、地学教育の危機がマスコミや学会で広く取り上げられる今日にあって、本書の出版に代表される京都地学教育研究会の活動に対し地球科学を生業とする我々も学ぶべきことが沢山あるように思える。今後も一研究者として、日本各地で巻き起こりつつある草の根的な地学教育のアウトリーチ活動に対して、積極的に支援していきたいと考えている。

(産総研 地質情報研究部門 七山 太)